

# 衆議院予算委員会ニュース

平成 22.8.3 第 175 回国会第 2 号

8月3日(火)、第2回の委員会が開かれました。

## 1 予算の実施状況に関する件

- ・菅内閣総理大臣、原口総務大臣、岡田外務大臣、野田財務大臣、川端文部科学大臣、長妻厚生労働大臣、山田農林水産大臣、前原国土交通大臣、小沢環境大臣、北澤防衛大臣、仙谷国務大臣(内閣官房長官)、中井国務大臣(国家公安委員会委員長)及び玄葉国務大臣(公務員制度改革担当)に質疑を行いました。

## 2 理事の補欠選任

- ・理事の補欠選任を行いました。  
理事 富田茂之君(公明)(理事富田茂之君今3日委員辞任につきその補欠)

(質疑者及び主な質疑内容)

### 田村憲久君(自民)

- ・平成 23 年度予算の概算要求組替え基準における 2.3 兆円の要望基礎枠では、社会保障関係費の自然増分、新成長戦略分及びマニフェスト実現費用分を賄えないのではないか。
- ・平成 23 年度予算において、財政投融资特別会計、外国為替資金特別会計、国債整理基金特別会計及び年金特別会計における積立金を取り崩す可能性はあるのか。
- ・子ども手当について、参院選マニフェストで上積みと記載したことが、衆院選マニフェストの変更に当たらないか。子ども手当の満額支給の可能性はあるのか。

### 平沢勝栄君(自民)

- ・金賢姫元工作員の訪日に対する大韓航空機爆破事件の韓国被害者家族の心情について、中井国務大臣はどのように認識しているのか。
- ・今回の参議院選挙において、民主党はJR総連及びJR東労組の関係者を候補者として擁立したが、これらの労組と革マル派との関係についてどのように認識しているのか。
- ・教育公務員が政治的中立に違反した場合には罰則の対象とするよう、所要の法改正を行う必要があるのではないか。

### 井上義久君(公明)

- ・参院選で示された「直近の民意」をどう受け止めているのか。
- ・政治資金規正法第25条第2項については、検察審査会の議決においても「会計責任者に対する政治家の監督責任が世間一般の常識に合致していない」と指摘されてお

り、改正の必要があると考えるが、菅内閣総理大臣及び原口総務大臣の見解を伺いたい。

- ・民主党の政権公約について、昨年の衆院選時と今年の参院選時のものとどちらを正式なものと理解していいのか。また、昨年、示されたマニフェストの工程表と現在の状況は、整合性が取れていないのではないか。

### 斉藤鉄夫君(公明)

- ・国会議員歳費日割り法案を今国会で成立させる必要があると考えるが、菅内閣総理大臣の決意を伺いたい。
- ・民主党は、昨年の衆議院議員総選挙のマニフェストにおいて、国家公務員の天下りあっせんの全面禁止、定年まで働ける環境づくり、総人件費の2割削減を謳ったが、6月22日に閣議決定された退職管理基本方針は、これらの方針に反するのではないか。
- ・口蹄疫対策に関し、地元からは、基金の設置と政府窓口の一本化を望む声が寄せられているが、これらについて政府の見解を伺いたい。

### 笠井亮君(共産)

- ・所得税率のフラット化や証券優遇税制による高額所得者と平均的な給与所得者間の給与格差による不公平の拡大や税による所得再分配機能低下を是正すべきではないか。
- ・日本の財政健全化が課題となる状況のなか、在日米軍に対する思いやり予算を廃止すべきだと思うが、菅内閣総理大臣の考えを伺いたい。
- ・技術研究本部による軍需企業からの職員受け入れをはじめとする、防衛装備品の開発・量産段階における官業癒着の実態について、調査・見直しをすべきだと思うが菅内閣総理大臣の考えを伺いたい。

## 阿部知子君(社民)

- ・雇用が低迷しているなか、グリーンニューディールによる新たな雇用創出のための具体策と、そのための実効性担保の仕組みを総理のリーダーシップにより提示すべきではないか。
- ・地球温暖化対策としての環境税の位置付けと使途について整理し、早急に税の導入を図るべきではないか。
- ・児童虐待防止のために、サポートを必要としている者に対する自治体窓口での行政サービスのアナウンスの拡充など、情報弱者に対する取組みを強化させる必要があるのではないか。

## 江田憲司君(みんな)

- ・国会議員の歳費削減や定数の削減についての菅内閣総理大臣の決意を伺いたい。また、企業団体献金の全面禁止について明言する必要があるのではないか。
- ・国家戦略局設置について今後の取り扱いについて伺いたい。
- ・本年6月22日に閣議決定された、退職管理基本方針の内容は天下りの全面解禁になるのではないか。